



日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会は、6月24日に第44回通常総会で任意団体であった連合会を解散、同日に労働者協同組合法人として創立総会を開催。15の労働者協同組合及び連合会法人とともに、「日本労働者協同組合連合会」を設立しました。初代理事長には古村伸宏、専務理事には田嶋康利が選ばれました。創立記念レセプションには、207名が参加し盛大に新たな船出を祝いました。

古村は創立総会の発起人代表挨拶にて、「15の労働者協同組合及び22の準会員が、協同労働を体現するパイオニアとして、さらに広げていく役割を担う、その決意の場としたい。時代と世界の混沌は深まり、日本社会は世界を覆うさまざまな危機の根源と同化する歩みを急ごうとしている。そんな中で、政治的思惑を超えた労働者協同組合法が成立・施行された意味は想像以上に重く深い。協同労働運動は、労協法成立・施行という大きな契機を得て、働くこと・働き方から世界を変える、働くことの中に協同を取り戻す運動として、いよいよ本章を迎える。また協同こそが人類の生存戦略であり、人間は今一度、他の生き物・命との共存こそが地球の原理であることを、働くことから、地域から、事業活動と社会連帯活動をベースに伝え広げていく必要がある。」と。

来賓挨拶では加藤勝信厚生労働大臣のメッセージを村山誠厚生労働省雇用環境・均等局長より代読され、「各地でさまざま

な分野で労働者協同組合が立ち上がっている。連合会が設立希望する方々への支援など、先駆者として多大なるご協力をいただいた。労働者協同組合の新たな社会的価値を体現することを期待する」と挨拶された。

日本協同組合連携機構(JCA)の中家徹会長からは、「地域や経済的、社会的弱者をめぐる問題が深刻さを増している。よりよい仕事にこだわり、地域共生に関わる多様な活動を広げていく取り組みはますます重要。JCAも連携し、持続可能な地域づくりにおける協同組合の役割をさらにひろげたい」と述べられた。

レセプションでは、後藤茂之経済再生担当大臣より、「法律を作るお手伝いをさせていただいたが、こういう新しい働き方、社会の支え合い方を長らく追求してこられた皆さんの熱意のおかげだと思っている。新しい社会に向かって、連合会が新たに出發され大きな風を送りだしていただくようお祈りする」と期待を述べていただいた。

7月3日に法人登記も完了し、厚生労働省にも成立届出書を提出。いよいよ、新しい日本労働者協同組合連合会がスタート。

引き続き、労働者協同組合・協同労働へのみなさまからの変わらぬご理解、ご協力をいただき、同時にご指導、ご鞭撻もいただきながら、加盟組織とともに労働者協同組合・協同労働を深め、広げていくことに取り組んでいきます。